



## タイ王室表彰伝達式と「子どもの日の集い」

### おごそかに、そして楽しく開催

好天に恵まれた1月15日の日曜日、ドゥアン・プラティープ財団ではタイ王室ウボンラット王女による日本のボランティア組織「エルセラーン1%クラブ」代表、石橋勝氏に対する表彰伝達式と「子どもの日の集い」を開催しました。

石橋氏は「利益の1%を国際ボランティア活動に貢献する」ことをモットーに1981年、エルセラーン化粧品会社を創業、以来36年にわたってタイをはじめ、ネパール、バングラデシュ、ラオス、フィリピンなどで学校建設などを中心に支援を続けられ、学校だけでも120校に達しています。

プラティープ財団に対しては、貧しく、厳しい生活環境に生きる幼稚園児のために、幼い時から自立心をはぐくむモンテッソリー教育を導入しているほか、西部カンチャナブリ県にある「生き直しの学校」の図書館づくりや、自立運営に向けてのアブラヤシ農園づくりなどをすでに10年にわたって支援して来られました。タイ王室ではこうした石橋氏の努力と貢献を「これからの21世紀に欠かせないソーシャルエンタープリナー（社会起業家）」として表彰されることになりました。

財団の一角にあるモンテッソリー教育トレーニングセンターで行われた伝達式では、チャーチャー・シティパン元交通大臣をはじめ、大村周太郎日本国大使館公使、島田厚タイ国日本人会会長らが参列。来賓を代表してチャーチャ元交通大臣から、石橋氏に代わって参列されたエルセラーン化粧品会社副社長、糸谷沙恵子さんに記念が伝達されました。

続いて行われた子どもの日の集いは、昨年10月13日に逝去されたプーミポン国王の偉業を偲ぶことをテーマに式典が行われ、糸谷副社長は「子どもたちは、存在そのものが未来です。クロントイの児童、生徒、学生の皆さんが希望を持って学んでゆけるよう、私たちも支援を続けます」と挨拶されました。

式典では、厳しい生活環境の中でも、親と子、家族の絆を大事にして日々を送っている模範的な家庭の表彰も行われました。

